● 研究室紹介

岩手大学工学部土木工学科
土木計画学研究室

岩佐　正章
安藤　　昭
赤谷　隆一

はじめに

岩手大学は，昭和24年新制大学として設置されたが，工学部の前身は昭和14年に創設された盛岡高等工業学校（昭和19年以降盛岡工業専門学校）である．岩手大学工学部となった当初は，機械，電気，鉱山，金属工学科だけであったが，その後，機械工学第二学科，電子，情報工学科，応用化学科，資源化学科，土木工学科を加えて，現在は10学科となっている．大学院工学研究科修士課程は昭和43年に設置されている．

土木工学科の開設は15年前の昭和48年である．しかし，土木の教育は昭和38年から鉱山工学科の中で一部行われており，特に，昭和40年の資源開発工学科への改組に際しては，地質，鉱物，掘削工学講座のほかに，水工学・材料工学講座が設けられ，学生を資源，土木の2コースに分けた教育が行われていた．その後，昭和44年には，防災工学，構造力学・交通工学講座が増設されて6講座体制となった．さらに，昭和48年には衛生工学，土木計画学講座の増設が認められ，既設の水工学・材料工学，構造力学・交通工学講座と組み合わせて，土木工学科として分離，独立したものである（教官定員12名，学生定員40名）．

土木計画学研究室

土木計画学講座の開設は昭和49年である．現在のスタッフは岩佐正章助教授（昭和38年赴任），安藤　昭助教授（昭和44年赴任），赤谷隆一技官（昭和55年赴任，学生のよき兄貴分）の3名である．卒業研究の学生は通常8～10名，大学院生1～2名である．前任者は伊東茂冨教授（昭和53年赴任，61年退官），山内　京技官（昭和37年赴任，62年退官，津軽美女）である．

当研究室では，東北の各大学と交流し，特に秋田大学とは研究交流のほか，野球の定期戦なども行い，また，北海道大学とも連携をとって研究を行っている．

研究活動

岩佐は，昭和38年から44年頃まではアスファルト舗装の実験的研究に従事していたが，以後，都市における城址に関して調査的研究を行った．昭和50年代末頃からはソフトエネルギーに関する研究を行っている．現在は主に地域におけるエネルギー計画と交通計画の分野に関心をもっており，テーマは次のようである．

（1）ソフトエネルギー利用による地域開発
（2）過疎地域における交通手段の確保
（3）岩手県におけるコミューター航空の導入

安藤は，主に都市景観計画の体系化に関する研究を行っている．都市全域を対象とする研究は都市の基本的快適性を決定づけるという重要性をもつという認識のもとに次のような問題に取り組んでいる．

（1）都市のイメージ再生技法に関する比較研究
（2）都市景観の国際比較研究
（3）小都市アメニティーに関する研究

赤谷は，地域構造の解析，各種調査の電算処理などを行っている．

おわりに

汽車の窓　はるかに北にふるさとの山見えくれば　襟を正すも　（啄木）　なつかしい盛岡である．（石川栄耀教授「東北研究」巻頭言，昭和26年）

この本の中に1～2盛岡を引用したのは石川教授が自著の序文に引き，随筆に書き，日本三美都の一と賞揚された町だからである．（「都市計画」序，昭和41年）

盛岡市と土木計画学の研究に関して小川博三教授は次のように記している．

歩みはその出発にあたっては遅々としてつつましくありたい．そして次第にたしかな足どりとなり，やがて歩武堂々と闊歩する様でありたい．その日は10年後であろうか，20年後であろうか．考えてみれば楽しいことである．（「地域と交通」発刊にあたって，昭和45年）

岩手大学の所在地盛岡市は石川，小川両教授のゆかりの地である．土木計画学創始者の人々の情熱と思潮を継承していきたいものと念願している．